

2002年度

(2002年4月1日～2003年6月30日)

事業報告 決算報告

2002年度 事業報告

- I. 2002年度の総括
- II. 活動報告
- III. 組織

2002年度 決算報告

- I. 収支計算書 (2002年4月1日～2003年6月30日)
- II. 貸借対照表 (2003年6月30日現在)
- III. 財産目録 (2003年6月30日現在)
- IV. 監査報告

特定非営利活動法人
市民活動センター神戸

I. 2002年度の総括

■ 地域のNPOセンターとしてKECには、『NPO支援（コンサルティング、情報提供、マネジメント支援）』『ネットワーキングとその事務局』『調査と提言（シンクタンク）』『市民へのNPO情報の提供』等、きわめて複合的な役割が要求されている。市民活動を支える社会インフラが決定的に足りない中、神戸・兵庫における数少ないインフラ組織として、KECは重要な役割を果たしてきた。特に2002年度は「NPO支援」「ネットワーキング・事務局」の面での活動が大きかった。

「NPO支援」では、相談事業（コンサルティング）について「わーす」事業のその部分も含めて力を入れ、個別相談や「助成金相談会」などにおいてNPOから高い評価を受けた。また、マネジメント支援として行った受託事業「アドバイザー派遣事業」は3年目を着実にこなし成果をあげた（ただし、当初のミッションは果たし、より深い展開を図るべき時期と判断し、'03年3月末をもって終了した）。相談事業においては記録が十分に取れておらず、相談内容のデータベース化と分析が今後の課題である。

「ネットワーキング・事務局」としては、ひょうご市民活動協議会（HYOGON）などの事務局を務め、この地域の市民活動のネットワーク拠点として不可欠な存在となりつつある。さらに、「HYOGONコミュニケーション祭」「池澤夏樹講演会」の開催事務局、「ぼたんの会」への参加など、事務局機能を強く発揮し、いずれもインパクトのある活動を実施できた。とりわけ「コミュニケーション祭」はNPOの広報力を高めようという趣旨のユニークな活動で、初回ながら大きな反響があった。ただし後述のように、ネットワーク的活動が活発だった反面、日常的・継続的なKECの独自事業がそれにおされ不十分だった点は否定できない。

また、KEC WEBは年度末に懸案の全面リニューアルを果たし、地域のNPOポータルサイトへの第一歩を踏み出した。NPO支援の情報ツールとして、また市民とNPOをつなぐ窓口（インターフェイス）として育ててゆく基盤はできた。しかし一方、情報誌「みみずく」発行は'02年7月を最後に、新年度（'03年7月）まで発行が止まった。KECの看板事業として、猛省したい。

2002年度に重点領域としたのは「相談」「情報・広報」「提言・オピニオン発信」の3つだったが、3つめの「提言・オピニオン発信」については、HYOGONとして行ったNPO税制フォーラム（企画：KEC）は税制改正に大いに寄与したと考えられるが、それ以外はみみずくの発行停滞もあって不十分だった。調査事業では、年度途中から準備してきた2種の事業（KIP/木口ひょうごNPOセンター研究会、NPO政策提案力調査（アドボカシー研究会））が新年度に入ってから本格スタートした。政策提言やネットワーク強化の基盤となるだろう。

新規にスタートした「わーす」事業（支部）は、市民事業への相談と起業支援というKECのミッションに沿う事業の委託化であり、その意味は大きい。しかし初年度の事業立ち上げには相当な労力を必要とし、実質的には持ち出しとなった。'03年4月以降は受託2年目に入り、経営としても軌道に乗せなければならない。

■ 事業面は以上の通りだが、組織強化の面では、昨年総会時に「事業量を減らし、事業開発・組織強化に力を注ぐ」として掲げたスローガン『青空プロジェクト』は十分に達成されたとは言いがたい。行政委託事業の割合は前年度に比べ減らしたものの、逆に増えた活動・事業も多く事務局の体制強化が追い付かなかった。新規の事業開発や組織強化は不十分に終わった。

■ 社会の変動期にあって変革性の高い市民活動団体（CSO）が担うべき役割はまだ潜在的に大きいはずであり、それを支える社会インフラとして「サポートセンター」（中間支援組織）の果たすべき役割は大きい。冒頭に書いたように、現在の状況の下ではサポートセンターには過大な期待がかかりがちだが、どんな組織でも現実には限界があり、得意分野にできるだけ資源を集中して有効な役割を果たす必要がある。「NPO支援」「情報」面にも引き続き力を入れるが、NPOセクター全体として最も強化が望まれる「調査・提言」機能の充実に、力を入れてゆきたい。

体制・運営面の問題としては、業務管理体制（会計等を含む）の一層の強化が必要である。全体の改善点として以下が挙げられる。

- (1) 活動の一層の重点化。目標の明確化
- (2) 体制の強化、拡充。とりわけ情報力、ネットワーク力
- (3) スケジュール管理など業務管理の徹底
- (4) 管理業務の省力化・分担見直しと、可能なもののアウト・ソーシング

2003年4月から7月にかけて事業・体制両面で抜本的な見直しを行い、活動領域のさらなる明確化と体制強化に取り組んでいる。（→事業計画参照）

事業一覧

<運営相談事業>

- 1 相談事業

<情報提供事業>

- 2-1 復興・市民活動情報誌「みみずく」
- 2-2 KECホームページ
- 2-3 NPOパブリック・リレーションズ開拓事業
- 2-4 情報コーナー整備事業 ☆

<人材育成事業>

- 3 研修事業
 - ◇コンサルタント養成講座

<交流および協力関係の促進事業>

- 4 サロン事業
- 5 企業市民推進プロジェクト
 - ◇HYOGONコミュニケーション祭2003事業（事務局） ※

<講師派遣および研修コーディネート事業>

- 6 学び支援（講師派遣）事業

<調査研究、提言、啓発事業>

- 7-1-3 政策提言活動・公開フォーラム
 - ◇「認定NPO法人制度の改善を求める決起集会」（HYOGONとして） ※
- 7-2 調査・研究
 - ◇木口ひょうごNPOセンター研究会（KIP）（事務局） ※
 - ◇NPO政策提案力調査（アドボカシー調査） ※

<事務局受託事業>

- 8-1 ひょうご市民活動協議会（HYOGON）事務局
- 8-2 市民社会推進機構（CAS）事務局

<その他の事業>

- 9 NPOアドバイザー派遣事業
- 10 わーす（生きがいしごとサポートセンター神戸）事業・ランチ ※
- 11 池澤夏樹講演会「イラクとアメリカに架ける橋」事業（事務局） ※ ☆
- 12 ぼたんの会事業 ※ ☆
- 13 ネットワーク活動・他団体の役員就任、各種の会議・研究会等への参加

※は他団体との連携事業

☆は計画外の事業

II. 活動報告

<運営相談事業>

1 相談事業 ※日本財団助成事業

「一撃必中！助成金相談会」は9月から月一回に定例化。申請書の書き方指導にとどまらず、活動計画そのものを問い直す場として、利用団体からは概ね好評を博している。全国から申請のある競争率の高いものも含まれることを考えれば、合格率も悪くはないのではないか。「成功報酬」については誤解や不満の声もあるため説明を詳しくしたが、KECの収入面での貢献も無視できない数字となった。

その他、日々舞い込む電話や面談による相談は、団体の連絡先問い合わせから人材育成についてまで多種多様。ミッションそのものの整理や組織の運営体制、人材育成、事業計画策定に対するものなど、団体の事情に分け入る内容のものも増えてきた。NPOを支えるインフラの一つとして、同じNPOの立場で一緒に悩む「相談所（員）」は、他にないこともあって、果たす役割は小さくないだろう。

「3-4 コンサルタント養成講座」と重ねて行った「相談事例検討会」からは個別にさまざまな課題が浮かび上がったが、まとめきれていない。もう一段まとめていくことで、市民活動団体の置かれている状況や課題の把握につながるのではないか。

【相談件数（記録分）】216件 内訳については図をご参照のこと。

【テーマ別相談】

◇助成金相談会 実施12回、のべ30団体利用、申請23件中10件合格
平均申請額206万（9万～650万）、成功後の謝金計58.4万円

◇NPO法人化相談 12団体13件

【事例検討会】 3回（12, 5, 6月）、参加：コンサルタント（今田、中田、森田平畑、武藤）およびスタッフ全員

いっぽう、「相談メニュー」づくりについては、NPO法人化相談は3段階の対応メニュー（2段階目から有料）を作成したが、それ以外のメニュー提示には到らなかった。これは、相談されれば可能な限り対応する姿勢はあるものの、明確に打ち出せるだけの得意分野をスタッフがまだ持っていないことによる。次年度以降の課題である。 （責任者：八十/担当：全員）

相談件数の円グラフ (エクセル)

<情報提供事業>

2-1 復興・市民活動情報誌「みみずく」

隔月発行の目標を立てたが、2002年4月および7月の2回の発行に留まった。発行部数は、それぞれ4,000部。また、付録の「みずく掲示板」ではこれまでの助成金情報の他にイベント・ボランティア情報を盛り込んでいく方針を立てたが、みみずく発行の遅延に伴い実現しなかった。

発行が遅延したのは、編集企画の中身を十分につめきれなかったのと、昨年度と同じく委託事業など外部的な事業に押されてしまったため。みみずく発行遅延に伴い低下した情報発信のうちイベント・ボランティア情報はWebで補った。(山根/八十、実吉)

2-2 Web

前回の改訂から3年ぶりに全面的にデザインと内容の改訂を行った。メニューを大きく市民向け情報欄とNPO向け情報欄に2分し、必要な情報にアクセスしやすくするとともに、KECが関わるネットワークの紹介とそのサイトへのリンク機能をトップページにもたせた。ちなみに2003年4月改訂以降のアクセス頻度は月平均1,500件である。

市民向け情報ページについては、イベント・ボランティア情報が随時更新される体制ができたが、団体紹介は、従来のグループ名鑑2000の内容を引き継いだままである。また、NPO向け情報および当初の計画としてあったメッセージ性を持たせた読ませるページ作りも、引き続き課題である。(山根/熊沢、山崎ま)

2-3 パブリック・リレーションズ開拓事業 ※日本財団助成

NPO活動を広く社会に発信し、多くの市民の参加を促進することと、NPO自身の発信力向上のために、マスメディアでの番組放送や連載記事の掲載などをめざした。連携可能なマスメディア及びスポンサー企業開拓を行い、NPO紹介番組の放送について県内コミュニティFM8局との合意を得たが、スポンサーについては理解を得るのが難しく、番組実現には到らなかった。

NPOに対しては、「HYOGONコミュニケーション祭2003」が趣旨を同じくしたため連携し、これを通して意識啓発に努めた。(大和田)

2-4 情報コーナー整備事業

地域の市民活動情報が閲覧できる場として情報コーナーを設置した。作業は日産ラーニング奨学生を中心として、団体の情報誌・チラシのファイリング、NPO関連の書籍の整備などを行った。大まかな整理は出来つつあるが、日々送られてくる資料も多く、その整理方法については再度検討しなければならない。今後はさらに閲覧しやすい仕組みづくりを検討したい。現在閲覧できる資料は下記の通り。(大和田、金、木曾)

■ 情報コーナー

団体リーフレット約70団体

団体資料(情報誌等)約100団体

書籍 約300冊

※その他、イベントのチラシなどについては随時掲示

■ みみずく書房（書籍売上数）

市民社会をつくる	134冊
グループ名鑑	14冊
その他書籍	80冊

<人材育成事業>

3 研修事業

年度当初には4つの人材育成事業を行う予定だったが、他の事業に押されて3つまでは実施できなかった。

「コンサルタント養成講座」は相談事業との連携のもとに実施。KECでアドバイザー経験のあるお二人に参加をお誘いし、相談現場と事例検討会を通してKECの相談対応のめざすところを理解して頂いた。新年度はコンサルタントが2名増となり、相談事業の充実に寄与できるだろう。

（八十、実吉、石川）

<交流および協力関係の促進>

4 サロン事業

構想・アイデアはあったが他事業におされて実施できず。

（実吉、大和田）

5 企業市民推進プロジェクト

HYOGONコミュニケーション祭2003事業（連携事業、事務局）として実施。

NPOの広報媒体の出来を競うコンテストの事務局を務める。HYOGONを母体に県なども入った実行委員会（委員長＝光森史孝氏）を構成し、予定していたメインゲスト（村上龍氏）が来られなくなるなどのハプニングも含め、試行錯誤のなか第1回を行う。

NPOがその活動への共感や支援の輪を広げるために、市民・社会への広報が重要であるというこのイベントのコンセプトそのものがNPOに届き、多数の応募となったと思われる。その意味でタイムリーかつ重要な提起ができたのではないか。ただ、2/16当日の来場者は、予選通過者以外は（潜在的な数を考えれば）それほど多くなく、「学び」を得られるような場にするなど、も

うひと工夫必要だったか。

HYOGONそのものではないが、実質的にHYOGONが主体の事業として、目玉事業となった。反面、KECとしては事務局負担が予想以上に大きく、他に影響した。2003年度も事務局を引き受けることになったが、負担が過重にならない配慮が必要。(実吉/大和田、熊沢)

【日 時】 2003年2月16日(土)午後1時～6時

【場 所】 神戸クリスタルホール

【応募数】 216点(107団体より)

【部 門】 「機関誌」「パンフレット」「ポスター」「ビデオ」「Web」「その他」の6部

【来場者】 約300名

【実行委員会の構成】 HYOGON加盟団体(ツール・ド・コミュニケーション、(特)都市生活コミュニティセンター、被災地NGO協働センター、KEC他)の他、(株)FMわいわい、兵庫県および諸個人

<講師派遣および研修コーディネート事業>

6 学び支援(講師派遣)事業

今年度は前年に作成した広報パンフレットを使って行政・企業・NPO関係等に宣伝し、講師派遣や視察・研修受け入れを行った。また、学び企画委員会を5回開催し、事業の枠組みを定めると共にパッケージコースの企画を立てた。主な事例としては、2002年9月に豊田合成労働組合(愛知県)から依頼を受け、神戸のNPO見学とボランティア体験の研修パッケージ企画を提供し、好評を得た。

講師派遣、視察/研修受け入れの実績は以下のとおりであるが、自主財源確保のための事業という位置づけに対し、収入は目標額には至らなかったため、引き続き努力が必要である。

(橋本/熊沢)

【講師派遣】 派遣回数：23件 総売り上げ：605,485円

【視察/研修受け入れ】 受入れ数：12件 総売り上げ：363,700円

【顧客内訳】 企業：5件、行政：13件、NPO：14件、大学：2件、その他：2件

【企画委員】 森田博一(委員長、KEC副理事長)、磯辺康子(神戸新聞社)

桑原英文(KEC理事、JP-com事務局長)、中田豊一(KEC理事長)

飛田雄一(KEC監事、神戸学生青年センター館長)、実吉威(KEC)

<調査研究、提言、啓発事業>

7-1-3 政策提言・公開フォーラム

NPO税制に関するフォーラムをHYOGONの主催で行った他は、あまり動けていない。

(実吉/大和田)

◇11月に、HYOGON主催でシーズ松原明氏（KEC理事）を招き「認定NPO法人制度の改善を求める決起集会」を開催（KECは全体のコーディネート）。人数、会の盛り上がりとも上々の出来で、その後国会でNPO支援税制（認定NPO法人制度）の改善に大きく寄与したと思われる。

KECの単独事業にするか迷ったが、HYOGON主催とすることにより、より参加も募れたか。当日の運営もHYOGON加盟団体の参加を得た。KECは全体の企画とコーディネートを行った。

【日 時】11月16日（土）午後6時～8時

【場 所】あすてっぷKOBE（神戸市男女共同参画センター）

【主 催】ひょうご市民活動協議会（HYOGON）

【ゲスト】赤羽一嘉氏 衆議院議員（公明党）
奥谷 通氏 衆議院議員（自由民主党）
小池百合子氏 衆議院議員（保守党）
土肥隆一氏 衆議院議員（民主党）
松原 明氏 シーズ＝市民活動を支える制度をつくる会 事務局長（五十音順）

◇11月15日、兵庫県の「参画と協働の条例案」に対し実吉がパブリック・コメントを提出。

7-2 調査・研究

◇KIP＝木口ひょうごNPOセンター研究会（連携事業、事務局）※木口ひょうご地域振興財団助成

市民活動支援の仕組みを神戸の中間支援組織と一緒にできないかと、木口財団のお声がけで2002年秋口から準備の場を持ってきた。ソフトばかりでなく、ハードのNPO支援センター/障害者支援センターづくりも視野入れて、まず2003年はグループ名鑑の改訂版作りにとりかかる（本格始動は2003年7月＝新年度から）。

県内のNPO法人数も約400に達し（2003年7月現在）「NPO」という概念が必ずしも市民活動団体、あるいは市民社会組織（CSO）を意味しない現在にあって、我々がネットワークを組み、市民にもその存在を伝えるべき市民公益活動とは何かを問いつつ進めようとしている。

並行して全国の先進事例の視察ツアー（2003年4月、東京・栃木）も行った。（実吉/八十）

【研究会メンバー】今田忠（座長）、木口一郎、鋤柄和成、浜口千絵子（以上、木口ひょうご地域振興財団）、大賀重太郎（被災地障害者センター）、凧裕之（生活の場サポートセンターひょうご）、国枝哲男（コミュニティ・サポートセンター神戸）、実吉威、八十庸子（KEC）

※この研究会の事務局スタッフとして大原ゆいさん（立命館大・大学院生）を2003年7月から採用。所属としてはKECの非常勤スタッフとなる。

※KIP=Kiguchi Infrastructure Project

◇ NPO政策提案力調査（アドボカシー調査） ※トヨタ財団助成

NPOの政策実現力の向上を目的に、神奈川のアリスセンター、宮城のせんだい・みやぎNPOセンターとの共同事業として2003年3月より3年計画で開始した。活動として手始めに兵庫県と神戸市からそれぞれ政策立案部署の担当者を招き、「政策形成過程を学ぶ学習会」を実施した。また、NPO、研究者、マスコミ関係者等をメンバーとして、月1回の研究会を開始し、NPOの政策提案活動の現状を知るための調査を開始する。

当事業ではそうした調査を通して、まず政策実現に必要な「能力」を明らかにし、さらにその能力向上にも取り組む予定だ。また、そうしたNPOによる提案を受け止める行政のしくみを検討することも本事業の対象範囲である。（実吉/山根）

<事務局受託事業>

8-1 ひょうご市民活動協議会/HYOOGN（連携事業）

県内のNPO/NGOが分野を超えてつながり、市民活動の基盤強化を共同で進めるために設立されたネットワーク組織の事務局を、昨年度に引き続き受託。本格的な展開を目指してワーキンググループを中心に様々な事業を行った。ほぼ月1回の運営委員会のほか、下記の諸事業を実施、HYOGONとしての活動の骨組みが見えてきた一年であった。

「ワーキンググループ方式」で加盟団体の主体的な参加をできるだけ呼びかけつつ、必要な時は事務局がリードするというのは難しいバランスだが、運営委員の積極的な関わりにより、徐々に軌道に乗りつつある。正会員数は37団体、賛助会員は3団体11個人。

(実吉/熊沢、大和田)

【政策提言】「NPO税制支援フォーラム」開催(別記)

「移送サービス」、「支援費制度」について学習会を開催

【交流事業】合宿(丹波市島)と地元NPOとの交流会

【広報事業】地域の情報共有インフラとして「HYOGONメーリングリスト」を主宰

HYOGONホームページの運営

「HYOGONコミュニケーション祭2003」開催(実行委員会として:別記)

【その他】会員むけファクス通信の発行(2002年9月から)

会員メーリングリスト、運営委員メーリングリストの運営

【運営委員】

代表	野崎 隆一	(特)神戸まちづくり研究所/神戸復興塾	
副代表	旭 奈緒子	(特)緑の森自然キャンプ協会	
	村井 雅清	被災地NGO協働センター	
	岡本 順子	(特)かものはし	※2002年12月まで
運営委員	池田 啓一	(特)都市生活コミュニティセンター	
	上田 諭信	プラザ5運営委員会/まち・コミュニケーション	※2003年6月から
	大賀 重太郎	(特)被災地障害者センター/生活の場サポートセンターひょうご	
	実吉 威	(特)市民活動センター神戸	
	西谷 吉弘	(社)コミュニティ・ネットワーク協会	
	日比野 純一	ワールド・コミュニケーション/(特)たかとりコミュニティセンター	
	広瀬 満和	(特)日本災害救援ボランティアネットワーク	※2003年6月まで
	古田 篤司	(特)新開地まちづくりNPO	
	吉富 志津代	多言語センター-FACIL/ワールド・キッズ・コミュニティ	※2003年6月から
	村山 メイ子	(特)東灘地域助け合いネットワーク	※2003年6月から
監事	飛田 雄一	(財)神戸学生青年センター	
	藤野 達也	(財)PHD協会	

8-2 市民社会推進機構/CAS

『市民社会をつくる』発行後の活動として、隔月で「フューチャーミーティング(FM)」(4, 6, 8, 10, 3, 5月)を開催。ニュースレター1号発行(2003.2月)。本の販売管理とFM開催を除けば事務局の守備範囲がやや曖昧な点もあったが、もう少しイニシアチブを発揮すべきだったか。

(八十/実吉)

<その他事業>

9 NPO支援アドバイザー事業（市民活動サポート・人材派遣事業） ※神戸市委託

2000年2月より3年余りに渡って実施した当事業は02年度をもって終了した。2002年度では40団体に対して、パソコン（6名）、会計（4名）、運営相談（1名）のそれぞれの分野のアドバイザーが派遣された。3年間を通して約40名のアドバイザーがNPOでの技術指導にあたり、派遣終了後もよき理解者となっている。

神戸市の委託事業としては4年目も別団体により実施されているが、KECがあえて受託を継続しなかったのは、次のような理由からである。①緊急雇用事業としてアドバイザーの雇用が6ヶ月未満に限られることの限界。②3年間を通してNPO支援や市民参加の機会提供という目的が実現できた。③活動の重点を技術支援から、より本質的な運営相談へ移したいという方向性の確認。④間接的支援にとどまるというこの制度の限界。⑤2年後の事業終了が確定している中、大型の委託事業の実施よりも新たな事業の開発を優先した。

KECとしては市民とNPOをつなぐコーディネーターとしての役割を果たし、技術支援コーディネートの経験を蓄積することが出来たと考えており、また、支援をしたNPOには習得した技能を引き続き活動に活用できるよう必要に応じてフォローを行っている。（山根、橋本/石川）

10 わーず（生きがいしごとサポートセンター神戸）事業・ランチ ※兵庫県委託

■期間：2002年4月～03年3月、正式オープン5月

コミュニティ・ビジネス（CB）への就業支援、CB起業・経営支援を2本柱に、社会に役立つ新しい仕事と働き方を提案していく県の委託事業。（特）しみん事業サポートネットワーク（SBSN）が受託し、KECはその構成団体としてランチ（支部）の運営を担当、起業支援を中心に下記事業を行った（センターは長田区）。

今年度“わーず”が関わった起業団体数はセンター、ランチ合わせて9件しかなかったが、その後も継続している起業相談が約7件あることなどを考慮すると、認知度を高め、起業希望者の発掘を行なう「種まき」はできたと考えており、まずまずの滑り出しだった。

また、CBという新しい働き方への関心、自らも起業したいという思いを持つ人たちが確実に増えつつあることを感じた1年であったが、CBという言葉がそれほど認知されていないこともあり、講座やインキュベーション施設などは必ずしも定員を満たすことができなかった。ニーズ（支援対象）の掘り起こしにはまだまだ工夫の余地がある。

ぶじ03年度の継続受託が決まり、今後は起業件数とともに、支援先の事業内容そのものや継続性が問われることになる。まいた種をどう育てていくかが今後の課題だ。（八十/石川）

ブランチ担当事業：

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| ①C B入門相談（起業・経営） | 利用者：延べ約120人（電話・メールを含む） |
| ②C Bゼミナール中級編 | 全9講座 参加者：延べ65人（実数8人） |
| ③C Bゼミナール入門編 | 全8講座 参加者：延べ35人（実数8人） |
| ④N P O法人設立講座 | 全3講座 参加者：延べ95人（実数36人） |
| ⑤交流会 | 全3回 参加者：延べ35人 |
| ⑥インキュベーション施設 | 3団体入居、1入居者募集中 |
| ⑦交流ライブラリー | 利用者：延べ約100人(相談者の書籍・資料閲覧含む) |

- 期間：2003年4月～6月（委託期間は2003年4月～04年3月。2004年度も基本的には継続）
事業内容：前年度に引き続き起業・経営支援を中心に下記事業を行っている。

ブランチ担当事業：

- | | |
|--------------|---------------------------|
| ①C B入門相談 | 利用者：延べ約60人（電話、メールを含む） |
| ②C Bゼミナール入門編 | 参加者：延べ40人（3講座終了時点） |
| ③インキュベーション施設 | 2団体入居、2入居者募集中 |
| ④交流ライブラリー | 利用者：延べ約20人（相談者の書籍・資料閲覧含む） |

11 池澤夏樹講演会「イラクとアメリカに架ける橋」（連携事業、実行委員会）

米英によるイラク攻撃を直前にした3月11日、『イラクの小さな橋を渡って』の著者で作家の池澤夏樹氏を神戸に招いて、ビデオ上映と講演会を行った。わずか2週間弱の準備期間ながら定員400名の会場が満杯になったのは講師とタイミングのせいだろう。ご存じのように、戦争は起こってしまったが、この事業を通してKECは神戸での反戦運動の一翼を担い、市民の問題意識を喚起することができた。

KECとしては通常の活動と違う領域なだけに激論の末取り組んだ。今後こういった活動にどう取り組むべきかは議論を要するところだが（「水俣フォーラム」の神戸開催事務局をという打診もあった）、大きな方向性としては、市民社会として重要なテーマであれば、取り組める体力をつけていきたい。
(実吉/全員)

12 ぼたんの会事業（連携事業）

神戸およびその近隣で活動する、中間支援組織など14団体が実行委員となり、03年4月、神戸北野の「北野ガーデン」において、市民活動支援のための「ぼたんの会」を開催。1枚1万円の

2002年度決算報告 売ったNPOに寄付され、残りから経費を差し引いた分と事務局の直接販売分が事務局である「しみん基金こうべ」を通して市民活動支援に使われる仕組み。総額約300万円が市民活動支援資金となった。当日はあいにくの雨にもかかわらず、音楽や踊りなどさまざまな出し物と作家の柳田邦男さん、灰谷健次郎さんほか多彩なゲストを囲んで300名以上の参加者が大いに盛り上がった。その中で、KECは「迎接部会」として、全体の調整や受け付けを担当した。(実吉/石川)

13 ネットワーク活動・他団体の役員就任、各種の会議・研究会等への参加

ネットワーク活動や他団体の役員就任、各種の会議・研究会等への参加。

① NPO同士のネットワークおよび他団体の役員就任

- ひょうご市民活動協議会 (HYOGON : 実吉が運営委員・事務局長)
- しみん事業サポートネットワーク (SBSN : 実吉が理事)
- 日本NPOセンター (実吉が理事)
- 生活の場サポートセンターひょうご (実吉が世話人)

② 各種の会議・研究会等への参加

- NPOと行政の協働会議 (兵庫県) . . . 一参加者
- NPOと神戸市の協働研究会 (神戸市) . . . 非常勤世話人 ほか

Ⅲ. 組織

1 会員（2003年6月30日現在）

＜正会員＞	51名（2002年3月31日時点＝44名）	
＜賛助・利用会員＞	2003年6月末現在の会員数 (2002.4～2003.6入金)	2002年3月末時点の会員数（※） (2000.6～2002.3入金)
市民団体会員	10	49
一般団体会員	0	3
個人会員	44	109
学生会員	1	6
購読会員	62（※2）	43
利用団体会員	17	1
（計）	134	211

※ みみずく未発行により継続のお願いができていないため、2000年の7月会員（2000年6月～11月の入会者）以降の会員を現会員と見なした数字。

※2 「1年＝6号分」の対価として考えているため、99.10（＝第7号発行）以降の入金者にはまだ購読権があると見なし、数に含めている。

会員制度について事務局内で検討を重ね、改訂案を第3回理事会に諮ったが、現会員らの意向をヒアリングするなどしたうえで実施すべきとされた。そのアクションがとれず、改訂に到っていない。（改訂案は利用会員へのサービスを充実して会費を値上げするというもの）

2 会議等

＜総会＞ 6月15日（土） 2002年度通常総会

出席正会員49名（うち表決委任者数21名）

※正会員総数＝51名

- 審議事項
- ◇ 2001年度事業報告に関する件
 - ◇ 2001年度決算報告に関する件
 - ◇ 定款変更（事業年度の変更）の件
 - ◇ 役員選任の件

＜理事会＞

◇ 6月15日（土） 2002年度第1回（通算第6回）

出席理事11名（うち表決委任者数4名）、監事1名

※理事総数＝11名

- 審議事項
- ◇ 2002年度事業計画に関する件
 - ◇ 2002年度収支予算に関する件

◇ 6月15日（土） 2002年度第2回（通算第7回）

出席理事11名（うち表決委任者数4名）、監事1名

- 審議事項
- ◇ 理事長、副理事長、専務理事選任の件

◇10月7日(月) 2002年度第3回(通算第8回)

出席理事11名(うち表決委任者数3名)

審議事項 ◇ 事業計画変更に関する件

◇ 会員制度変更の件

◇12月25日(水) 2002年度第4回(通算第9回)

出席理事10名(うち表決委任者数3名)

Ⅰ. 資産の部			Ⅱ. 負債の部		
1. 流動資産			1. 流動負債		
現金	46,344		未払金	304,130	
普通預金・郵便貯金	4,231,379		未払費用	1,451,837	
未収金	1,589,034		預り金	235,433	
短期貸付金	505,200		仮受金	600,000	
前払費用	491,425		前受金	820,000	
仮払金	129,302		流動負債合計		3,411,400
流動資産合計		6,992,684			
2. 固定資産			2. 固定負債		0
機材備品	228,179				
出資金	500,000		負債合計		3,411,400
敷金	960,000		Ⅲ. 正味財産の部		
固定資産合計		1,688,179	正味財産		5,269,460
			(うち当期正味財産増加額)		(-1,188,036)
資産合計		8,680,863	負債・正味財産合計		8,680,863

2002.6～専従7名(" 、大和田信行)

2003.4～専従5名(実吉威、八十庸子、石川知子、山根譲、大和田信行)

4月から専従6名、6月からはさらに1名増で7名と人員的にはKEC史上最大規模になった。また、パートタイムも2名(山崎ゆり、山崎まどか)に8月から1名(木曾由美)加え、全日ほぼ8名が常駐する体制とした。5年目を迎えた日産ラーニング奨学生(金英美さん=02.6～03.2)は、神戸大の社会人学生に参加してもらった(→情報コーナーの整備)。6年目が始まったところである(京都大・柴田慎士さん)。

福利厚生面での充実として2003年6月から専従スタッフには社会保険をかけることにした。

◆事務所移転

2002年4月から元町に移転し、アクセスがよくなったと好評である。ネットワーク団体としては必要な条件のひとつだろう。5月17、18両日に「お披露目会」を開催、合わせて108人が訪れた。また、2階が会議室として使用できるためHYOGON、SBSN等の会議やわーすのCBゼミ等の会場となり、同じように多くの人が訪れてくる場となった。

科 目	摘 要	金 額	
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金	現金手元有高	46,344	
普通預金	三井住友銀行長田支店	48,540	
普通預金	みなと銀行春日野支店 (法人)	2,728,957	
普通預金	みなと銀行春日野支店 (任意団体名義)	578,035	
普通預金	近畿労働金庫東神戸支店	53,676	
郵便貯金		4,421	(現預金小計
郵便振替口座		817,750	4,277,723)
未収入金	HYOGON・わーす受託費、正会員会費、相談料等	1,589,034	
短期貸付金	HYOGON	505,200	
前払費用	'03年7月分家賃、労働保険料法人負担分	491,425	
仮払金	労働保険料個人負担分、旅費交通費	129,302	
流動資産合計			6,992,684
2. 固定資産			
機材備品	プロジェクタ、ノートパソコン	228,179	
出資金	SBSN (無料職業紹介免許取得のため)	500,000	
敷金	事務所保証金 (敷引分を除いたもの)	960,000	
固定資産合計			1,688,179
資産合計 (A)			8,680,863
II. 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	労働保険料 ('03.07~'04.03)	304,130	
未払費用	6月分人件費、業務委託費 (HYOGON、PR事業)、旅費交通費等	1,451,837	
預り金	雇用・社会保険料、所得税 (源泉徴収分)	235,433	
仮受金	日本財団助成金返還分	600,000	
前受金	トヨタ財団助成金'03年7月以降相当分等	820,000	
流動負債合計			3,411,400
2. 固定負債			
負債合計 (B)			3,411,400
正味財産 (A) - (B)			5,269,463

収支計算書 1 ページ目 (エクセル)

収支計算書 2 ページ目 (エクセル)

II. 貸借対照表

2003年6月30日現在

(単位：円)

Ⅲ. 財 産 目 録

2003年6月30日現在

(単位：円)

IV. 監査報告

特定非営利活動法人 市民活動センター神戸

理事長 中田 豊一様